

2015年度 年度計画

2015年度の重点方針について

- 2015年度は第2期中期計画の3年目にあたり、翌年度には、創立70周年という大学にとっての大きな節目を迎える。
- 学外理事を任命し、大学運営の健全性と透明性を図るとともに、学校教育法改正の趣旨を踏まえ、学長のリーダーシップを確立し、大学ガバナンス改革を推進していく。また、神戸市外国語大学研究不正検証委員会（2015年2月設置）からの提言を踏まえ、不正防止の取り組みを強化する。
- 70周年記念事業である第2学舎増築工事を完成させ、新たな学修支援スペースを整備するとともに、記念誌の編集や記念イベントを企画する。また、本学をホスト大学として2016年度に日本で初めて開催される「模擬国連世界大会」の準備を進めていく。さらに、70周年を契機に、留学支援など海外との学生交流の一層の充実策を具体化する。
- 教育研究に関して、第2期中期計画の中心である大学院教育改革に引き続き取り組み、社会人プログラムの制度設計を行う。
- 学生ニーズの高い長期の交換・派遣留学先の増加を目指して、海外の大学との学生交流協定の締結を促進する。

第1 国際的に通用する人材の育成

1 高度なコミュニケーション能力の養成

(1) 複数外国語運用能力の獲得

- 語学運用能力の高い学生に関する履修環境の改善について検討する。
- 新たにスペイン語についてeラーニングシステムの導入を図る。
- 東南アジア地域に関する科目について、拡充案を検討する。

(2) 幅広い教養の修得

- 初年次教育の充実を図るとともに、国際コミュニケーションコースの一部科目の全学的な提供について検討する。
- ゲストスピーカー事業を実施するとともに、新たな教育支援事業について検討を行い、特色ある教育活動支援の諸制度を整備する。
- 学生生活調査の結果を踏まえた図書館の開館時間の延長やラーニングアドバイザーの導入による学修支援の充実など、学生の利便向上を図る。

(3) 高度な外国語運用能力と幅広い知識に基づく実践的な発信力の強化

- わが国で初めてとなる模擬国連世界大会（NMUN Japan 2016）の2016年11月開催に向けての準備を行う。
- 地元経済の活性化につながるマーケティング戦略を英語で発表する第5回全国大学生マーケティングコンテストを引き続き開催する。
- 発表や討論などの授業や学生のグループ学修などができる新たな教室や学修支援施設を完成させる。

模擬国連世界大会

2016年11月21日～27日、本学をホスト大学として世界各国から約350人の学生・教員が参加し、実際の国連活動を模した議論・交渉が英語で行われる。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は2011年度末までの実績値)

・語学授業ガイドラインの整備数
(2011年度2種類→5種類(全学科の専攻語学に整備を完了))

・図書館の入館件数
(2011年度164,545件→増加)

・全国大学生マーケティングコンテストの参加大学数
(2011年度13大学→増加。全国大会として定着を図り、学生に質の高い研鑽機会を提供する)
・国際コミュニケーションコース修了生のTOEICスコア
(2011年度平均903点→900点超の維持)

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は 2011 年度末までの実績値)

2 開かれた大学院教育

(1) 大学院教育の充実

- 新たに開設した「課題研究コース」の着実な運用を行なう。
- 大学院における社会人の受入を促進するための「社会人プログラム」の制度設計を行う。
- 大学院入試説明会を東京、福岡の遠隔地でも開催する。

高度職業人の養成のための履修制度の新設	2015 年度 新規実施
---------------------	-----------------

(2) 研究者の育成

- 「国際会議発表助成制度」を実施するなど、大学院生の研究活動を支援する。
- 東京外国語大学との第 6 回合同セミナーを行う。
- モナッシュ大学（豪）や天津外国語大学（中）とのダブル・マスター制度を実施するとともに、新たな大学とのダブル・マスター制度について検討する。

・ 海外の国際会議発表助成制度の利用者数（博士課程） (2011 年度 2 件→2018 年度 6 件)

3 教育制度の継続的改革

- カリキュラムの運営を行い、運営上の課題点への改善や充実を図る。
- 授業評価アンケートや新任教員との座談会などを実施し、改善策等について検討する。

4 入試制度の検証

- 2016 年度入試科目の変更について、受験生に対して様々な媒体を通じて周知する。
- 入学者アンケートや出身地域分析、入学後の成績追跡調査などにより、入学状況の動向に関する検証を行い、4 倍以上の志願者倍率を維持する。

・ 総志願者倍率 (第 1 期年度平均 4.6 倍→概ね 4 倍以上の水準の維持)
--

5 学生への生活支援と進路・就職支援

(1) 学生への相談支援

- 学生相談室や学生相談担当教員、カウンセラー等と連携し、支援を必要とする学生の早期把握に努めるとともに、相談支援の充実を図る。
- 国の動向、他大学の状況を踏まえ、授業料減免制度の見直しについて検討する。

<p>(2) 就職支援の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外インターンシップ事業に継続して学生を派遣するとともに、新たな派遣先を獲得するなどインターンシップ事業の充実を図る。 ○キャリアデザイン科目の提供やセミナーを開催するとともに、就職ガイダンス、学内企業説明会を実施する。 ○卒業生の進路先を100%把握するとともに、個別相談指導等きめ細やかな就職支援を行う。 ○TOEIC 成績優秀者(900点以上)表彰制度を継続して実施する。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は2011年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率 (2011年度 97.1% (全国 93.6%) →全国平均に比べ高水準の維持) ・卒業生の就職先等の把握率 (2011年度 100%→維持) ・インターンシップ派遣数(大学あっせん分) (2011年度 16団体 29名→2018年度に倍増(58名)) ・TOEIC受験者数(1年生) (2011年度 326名→増加) </div>
--	--

<p>第2 高度な学術研究の推進</p> <p>1 外国学の研究拠点としての役割の充実</p> <p>(1) 大学独自の研究プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際会議・セミナー等開催支援制度に基づく学会を開催するとともに、2016 年度に開催する会議の学内募集を行う。 <p>(2) 外部資金を活用した研究活動の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アドバイジング窓口を継続して設置することにより、若手研究者への申請支援を重点的に行う。また、外部講師を招いた科研費申請支援のための説明会を開催する。 ○学内の共同研究活動において、大型科学研究費補助金などの獲得を促す。 <p>(3) 外国学研究所事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リサーチプロジェクト事業を実施するとともに、新たに公募を行う。 ○ポストドクターなどを客員研究員として積極的に受け入れ、学内の研究活動を活性化させる。 <p>2 研究成果等の公表の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○過去の紀要等の掲載など、リポジトリシステムのコンテンツを充実させる。 ○海外から招へいた研究者等の講演会について、市民に公開するとともに、研究活動や成果について積極的に社会に発信する。 <p>3 海外の研究機関との学術提携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学内研究者の海外のフィールドワークや研究交流等、様々な機会を通じて新たな学術提携先を検討する。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は 2011 年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・研究プロジェクト支援事業の利用件数 (第2 期に 3 件以上)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・科学研究費補助金に関わる総件数と研究者の実人数 (各年度の受入及び新規申請の合計) (2011 年度 80 件 (うち研究代表者 44 件)、49 名 (うち研究代表者 37 名) →増加)</p> <p>・大型科学研究費補助金 (基盤 A 又は B) の新規申請件数 (毎年度 1~2 件申請)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・市民を対象にした講演会の開催件数 (第 1 期年度平均 2 件→増加)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・海外の研究機関との提携数 (2011 年度 5 件→2018 年度 10 件)</p> </div>
--	---

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は 2011 年度末までの実績値)

第3 地域貢献

1 市民の生涯学習意欲への対応

(1) 社会人学生の受入

- 引き続き大学院における「社会人プログラム」の制度設計を行う。
- 新たな科目等履修生制度の検証を行う。

(2) 市民の生涯学習機会の提供

- 市民講座、オープン・セミナーの受講者の増加を図るため、効果的な広報手段について検討する。
- 市民のニーズに応じた様々な講座を提供する。
- 大学図書館の市民利用制度の開放日数を引き続き試行的に拡大するとともに、本格実施に向けた検討を行う。

- ・オープン・セミナーの延べ受講者数
(第1期年度平均 156 名→増加)
- ・市民講座の延べ受講者数
(第1期年度平均 336 名→維持)
- ・市民対象の講演会の開催件数
(第1期年度平均 2 件→増加)
- ・図書館市民利用制度の開放日数
(2011 年度 110 日→増加)

2 神戸市の教育拠点としての役割の充実

(1) 小中高校の英語教育の支援

- 小学校英語活動基本研修、中高英語科教員スキルアップ研修など、市内の教員向けの研修事業を実施する。
- 小学生の外大訪問や中学生イングリッシュフェスティバル、高校生英語ディベートコンテストなどを本学で開催する。
- 市内や県内他都市において、幅広く研修事業等に協力する。
- 神戸市教育委員会との「連携協力に関するアクションプラン」を改訂し、これまで以上に充実した連携事業を行う。

- ・小中高校の英語教育支援事業
(2011 年度 6 件→増加)
※6 件は、小学校外国語活動基本研修、中高英語教員スキルアップ研修、オープンクラス事業、小学生の外大訪問事業、中学生イングリッシュスクール事業、近隣高校への教員・学生派遣事業

(2) 高大連携、大学間連携の推進

- ユニティをはじめ、様々な大学間連携を推進する。
- 東京外国語大学との連携協定に基づき、大学院合同セミナーや入試広報における取組の充実を図る。
- 全国7外国語大学による「全国外大連合憲章」に基づき共同事業等を実施する。
- グローバル人材育成や外国語教育などに取り組む地域の高校を支援する。

3 語学教員等の輩出

- 安定輩出を目指し、履修学生に対して、教職員や先輩学生からきめ細やかな相談支援を実施する。
- 履修学生の支援拠点である教職サロンについて、機能充実を図るために学舎1階へ移転する。

- ・教員免許取得者数(小中高校)
(第1期年度平均 70 名→維持)
- ・教員採用者数(非常勤を含む)
(第1期年度平均 16 名→維持)

<p>4 ボランティア活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際支援、教育支援、地域交流など、学内外からの多様な活動への協力要請に積極的に応える。 ○新入生向けのボランティア入門講座など、ボランティア活動の啓発を行うとともに、多様な分野へのボランティア活動の参加を促進する。 <p>5 国際都市神戸への貢献</p> <p>(1) 神戸市の国際交流事業などへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神戸市などが行う国際交流事業や国際スポーツ大会などに通訳等のボランティアとして学生を派遣する。 ○神戸市などが行う政策提案事業等への参加を通じ、本学の教育研究活動と市の施策などの連携や協力について検討する。 ○審議会の委員や講演会等の講師を努め、神戸市の各種施策へ参画する。 <p>(2) 地元企業や地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第 5 回全国大学生マーケティングコンテスト事業において連携する企業を開拓する。 ○国際交流・地域活性化等をめざす機関、団体などを対象に新たな事業提携先の開拓を検討する。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は 2011 年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への派遣学生数 (ボランティアコーナー、国際交流センターの幹旋分の合計) (2011 年度 465 名→増加) ・スクールサポーターの派遣学生数 (2011 年度 33 名→維持) ・イングリッシュサポーターの派遣学生数 (2011 年度 7 名→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・市の審議会委員や生涯学習の講師などを務める延べ教員数 (2011 年度 15 名→増加) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行政や団体などとの提携数 (2011 年度 1 件→2018 年度 5 件) ※1 件は、神戸市教育委員会 </div>
--	---

第4 国際交流

1 留学支援制度の拡充

- 学生生活調査結果を踏まえ、留学に関する学生ニーズに応えるために、70周年を契機として留学支援など海外との学生交流の一層の充実策の検討を行う。
- 荻野スカラシップ制度を活用し継続して学生を海外に派遣する。
- 帰国留学生による留学体験談を実施するとともに、同窓会が実施する派遣留学生と現地在住のOB、OGとの交流会に協力する。

2 外国人留学生の受入れと学内の国際交流機会の拡充

(1) 日本語プログラムの充実

- 日本語プログラムを開講し、増加する海外の提携大学などから留学生を受け入れるとともに、他大学との連携により文化体験等のプログラムの拡充など留学生受入れ体制の更なる充実について検討する。
- 日本語プログラムの留学生について、本学の学生や地域社会などとの様々な交流を行うとともに、日本語プログラム教室の移転を行う。

(2) 外国人留学生への支援

- 学生ボランティア団体と連携しながら、留学生と日本人学生の交流機会の拡大を図る。
- 学生や留学生が英語で討論する「第2回 KCUFS スーパープレゼンテーション」を市内の中学校などのALT（外国語指導助手）の協力を得て企画・実施する。

3 海外の教育機関との交流・連携の拡充

- これまで学生交換協定があまり実現してこなかったロシア語圏・中国語圏での学生交流協定の締結など、海外の大学の新規提携先を開拓するとともに、今後の海外の大学との提携の方針について検討する。
- モナッシュ大学（豪）や天津外国語大学（中）とのダブル・マスター制度及びエルマイラ大学（米）とのダブル・ディグリー制度を継続して実施する。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は2011年度末までの実績値)

- ・長期留学者数（交換派遣留学）
(2011年度31名→2018年度50名)
- ・短期留学者数（派遣留学）
(2011年度62名→長期留学者数の動向との関連を確認する)

- ・日本語プログラムの留学生数
(2011年度9名→増加)
- ・交換留学の人数枠
(2011年度3名→増加)

- ・留学生の生活及び日本語会話支援を行う延べ学生数
(2011年度27名→増加)
- ・チャット事業の延べ参加学生数
(2011年度1,224人→増加)
- ・外国人留学生数（大学全体）
(2011年度87名→増加)

- ・交換交流協定の締結大学数
(2011年度23件→2018年度35件)
- ・海外から招へいた研究者等による講演等件数
(2011年度12件(※)→増加)
※交換教員4名、外国人研究者の招へい8件

第5 柔軟で機動的な大学運営

1 自律的・効率的な大学運営

(1) 運営体制の改善

- 学長のリーダーシップを確立し、大学ガバナンス改革を推進する。
- 大学運営において、教職員の意見等を活用するために、学長懇談会を引き続き開催するとともに、学生との懇談会を開催する。
- 大学運営の健全性と透明性を図るとともに、本学の課題に重点的に取り組むために、学外理事を任命する。

(2) 事務などの効率化・合理化

- 大学改革や業務改善を推進するため、幅広く提案を求めていく。
- ペーパーレス会議の拡大について検討する。

(3) 大学データの蓄積及び活用

- 学生生活調査結果を踏まえて IR 機能を活用した検討会を行い、事業の充実・改善に活用する。
- 中期計画の進捗確認のために各種指標を有効に活用する。

2 人事の適正化

(1) 教職員人事の適正化

- 中期計画の達成や本学の特色ある教育研究体制に必要な教員を採用する。
- 市派遣職員を 2 名程度削減し、固有職員の採用及び人事異動などにより適正な職員配置に努める。
- 教員の活動全般を対象にした手当制度（ユニット制）の運用上の課題を検証する。

(2) 人材育成の推進

- 研修や人事異動を通じた計画的な人材育成を図るとともに、新たな人事給与制度を実施する。
- 教員の在外研究制度や特別研修制度を実施する。

新規事業の計画年度と参考指標
(参考指標は 2011 年度末までの実績値)

・学外の有識者の役員などへの任命
又は委嘱数
(5~6 名程度)

・ペーパーレス会議の拡大
(2011 年度 7 会議 68 回→増加)

・客員教員数
(2011 年度 4 名→増加)
・市派遣職員数
(2011 年度 30 名→減少 (2 名程度))
・固有職員数
(2011 年度 13 名→増加)

・外部研修受講件数 (延べ職員数)
(2011 年度 125 名→維持 (業務に必要な研修を適切に受講))

<p>3 財務内容の改善</p> <p>(1) 自己財源の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○70周年記念事業の寄附金への協力を様々な機会を通じて卒業生や教職員などに広く呼びかける。 ○施設の外部貸付を推進する。 <p>(2) 予算の適正化及び効率的な執行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員人件費の計画的な削減により、総人件費の適正管理に努める。 ○引き続き他大学との物品の共同購入を実施するなど、効率的な執行に努める。 <p>(3) 資産の運用管理の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生生活調査の結果を反映して、学生会館2階や共同研究棟のトイレ改修などアメニティ向上に努めるとともに、第2学舎外壁改修等を実施する。 ○資産を長期的に有効に活用するために、長期保全計画を策定する。 <p>4 点検及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○法人評価に関して、2014年度業務実績評価の結果を大学運営に活かす。 ○1年前倒して2016年度に受審する大学評価について、自己点検評価報告書の執筆・編集を行う。 <p>5 情報発信の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパスで教職員と学生が協力して本学の魅力を発信するとともに、地域の高校生を主な対象にした入試説明会を開催する。 ○学生による母校訪問など学生の参画による入試広報を実施する。 ○70周年の機運を高めるためにも、様々な媒体を通じて積極的な情報発信を行う。 ○海外への情報発信の充実を図るため、新たにイスパニア語の大学紹介パンフレットを作成する。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は2011年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の外部団体利用料収入 (6ヵ年合計5千万円を目指す) ・寄付金収入 (6ヵ年合計1億円を目指す) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費(退職金除く) (2011年度比10%程度の削減) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・総エネルギー使用量 (2010年度比10%削減の水準(465KJ)を維持) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ総閲覧件数 (2011年度374万件→増加) ・オープンキャンパス来場者数 (2011年度4,200名(入学定員の約10倍)→維持) ・高校等への入試広報件数 (2011年度39件→増加) ・記者資料提供件数 (2011年度25件→増加) </div>
---	---

<p>6 その他業務運営</p> <p>(1) 環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ○神戸環境マネジメントシステム (KEMS ステップ 2) に基づく取組を推進する。 ○太陽光発電システムの導入を契機として、教職員や学生への環境に関する啓発や取組への協力依頼を行う。 <p>(2) 危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生の海外留学に係る危機管理の啓発を入学時や留学前などの必要な機会に十分に行う。 ○情報セキュリティの情報提供や啓発を行うとともにウィルス被害などの事象発生時に迅速に対応する。 <p>(3) 安全管理の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員及び学生の安全管理の取組を推進する。 ○大学施設・設備の安全点検を実施し、緊急補修などの対応を行う。 <p>(4) 教育研究環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第 2 学舎増築を完成させ、芝生広場と一体となった総合的な学修支援環境の整備を行なう。 ○学生生活調査の結果を踏まえ、大教室のマルチメディア環境の充実を図る。 <p>(5) 創立 70 周年記念事業の企画及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○70 周年記念事業の学内イベントなどの準備を行うとともに、学内外に伝統や魅力を発信する 70 周年記念誌を完成させる。 ○70 周年を記念した教育研究の発表の場である学会の開催準備を行うとともに新たな留学支援制度を検討する。 ○同窓会や保護者会などに寄附金への協力をはじめ、事業への連携や参加を呼びかける。 <p>(6) 内部統制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種の内部監査を年度計画に基づき実施する。 ○神戸市外国語大学研究不正検証委員会からの提言を踏まえ、更なる不正防止の取り組みを強化する。 	<p>新規事業の計画年度と参考指標 (参考指標は 2011 年度末までの実績値)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ KEMS ステップ 2 (神戸環境マネジメントシステム) の目標達成率 (全項目の目標達成を目指す)</p> </div>
---	--

第6 予算、収支計画及び資金計画

1 予算（2015年度）

別紙

2 収支計画（2015年度）

別紙

3 資金計画（2015年度）

別紙

第7 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

3億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることも想定される。

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第9 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第10 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 積立金の使途

第一期中期計画期間中に生じた積立金は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

2 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

予算、収支計画及び資金計画

1. 予算（2015年度）

(単位：百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1, 1 6 7
自己収入	1, 2 3 4
授業料・入学金・検定料収入	1, 1 4 1
その他	9 3
受託研究等収入	1
目的積立金取崩	2 1 8
計	2, 6 2 0
支出	
業務費	2, 2 5 6
教育研究経費	2 9 5
一般管理費	1 7 7
人件費	1, 7 8 3
受託研究費等経費	1
施設・設備整備費	3 6 4
計	2, 6 2 0

2. 収支計画（2015年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	2, 3 6 0
經常費用	2, 3 6 0
業務費	2, 0 8 8
教育研究経費	3 0 4
受託研究費等	1
役員人件費	6 8
教員人件費	1, 2 5 6
職員人件費	4 5 9
一般管理費	1 7 7
減価償却費	9 5
臨時損失	0
収入の部	2, 3 5 0
經常収益	2, 3 5 0
運営費交付金収益	1, 0 5 5
授業料収益	9 3 5
入学金収益	1 7 9
検定料収益	3 6
寄附金収益	1 3
受託研究等収益	1
財務収益	2
雑益	3 4
資産見返運営費交付金等戻入	8 8
資産見返補助金等戻入	1
資産見返寄附金戻入	5
資産見返物品受贈額戻入	1
臨時利益	0
純利益	△ 1 0
目的積立金取崩益	1 0
総利益	0

3. 資金計画（2015年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金支出	3, 1 3 8
業務活動による支出	2, 2 3 4
投資活動による支出	3 8 6
財務活動による支出	0
翌年度への繰越金	5 1 8
資金収入	3, 1 3 8
業務活動による収入	2, 3 5 7
運営費交付金による収入	1, 1 4 6
授業料・入学金・検定料による収入	1, 1 4 1
受託研究等収入	1
寄附金収入	3 5
その他の収入	3 4
投資活動による収入	2
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	7 7 9